

第 482 回 N S T新潟総合テレビ番組審議会

1. 開催日時 2025年11月19日(水) 11:00～
2. 開催場所 N S T新潟総合テレビ本社
3. 委員出席
○委員総数 8名
○出席委員数 8名（レポート出席を含む）
委員長 伊藤 満敏
副委員長 本田 賢一（レポート）
委員 山田 富美子
委員 廣田 徹（レポート）
委員 杉浦 一成
委員 槇 大介
委員 吉田 謙佑
委員 岡井 美奈（レポート）

（敬称略）

○放送事業者側

酒井 昌彦（代表取締役社長）
高島 裕介（取締役）
中馬 淳一（取締役）

大矢 光徳（番組説明・報道制作部）
武者 正人（番組審議会事務局）

4. 議 題

(1) 番組審議

「J O Yの新潟ぶらり旅」

2025 年 9 月 12 日(金) 19:00～20:00 放送 (60 分番組)

(2) その他

視聴者対応、訂正・取消放送の報告

配布資料

- ・議題・レポート取りまとめ
- ・BPO報告 (NO. 282)

5. 議事概要

(1) 番組審議

番組審議では番組制作者による番組概要・企画意図等の説明文と動画を送付し、委員より事前に提出されたレポートを取り纏め、審議会ではポイントとなる意見をいただく形式をとった。

・11 回目を数え、いつも以上ににぎやかな雰囲気だったが、嫌味のない、親しみ感あふれる流れで好感を持った。特に今回はアウトドア BBQ 調理の醍醐味を BBQ 芸人が十分過ぎるほどその技を披露して、料理番組としてもレベルの高い番組仕上がっていた。

・調理の進み方や完成した料理の撮影カメラワークが、とても上手に撮れていて美味そうに見えた点が、番組を支えていた。

・今回は、キッチンと丁寧に調理シーンが見れたことによりドキュメンタリー風にも見えて、見飽きさせない番組になっており、お笑い芸人を多用したドタバタ番組とは、一線を画していたので良かった。

・「愛甘水」という品種の梨を食べられる賭けを、それぞれギャグをしてもらい勝者を決めるのだが、クリオネをネタにしたギャグには、何の意図も感じられずおもしろくなかった。

・JOYさんと地元の人たちとのふれあいの部分が非常に希薄になっているように感じた。従来の「JOYの新潟ぶらり旅」をイメージして第11弾を見始めたため、仲間内でギャグを言って勝手に盛り上がり、視聴者が置き去りになってしまったような感覚になり、見終わっての物足りなさ、JOYさんが本来持つ人懐こさや人間としての温かさを隠してしまうことになりかねず、もったいないように感じた。

・錫の小皿づくり体験で行った燕市産業資料館の入館前にタレントからから「なんで燕で金属産業盛んなの？」とせっかくの問いかけがあったが、その問いへの答はなくスルーされていて少し残念だった。ほんの数秒、ナレーションなどで、資源（鉱物、木炭）・流通（川、海）・技術力（和釘づくり、仙台から伝わった鋳起銅器技術）の3拍子が揃った地であることに触れて貰えたらよかった。

・小皿のデザインについてはあれでよかったのか。最高のBBQをするための器として使う前提として、ふさわしい図柄だったか？また、持ち帰ってものづくり体験の思い出として大切にしてくれるのか？笑える悪ふざけとの判断で放映されたと思うが、思いを持って体験を提供している側や燕の職人を軽んじられたようで笑えなかった。

・番組全体を通じて、JOYさんの軽妙さや切り返しのうまさ、会話を引き出し展開させる力を感じた。夕食時間帯に家族で会話をしながら楽しく視聴するには良い内容だと思う。

おそらく今後も続編が続いて行くものと思うが、ラーメン屋の紹介番組が溢れている中で、引き続きこのような他とは違う切り口で制作してほしいと思う。

・JOYさんの「新潟は第2の故郷」という設定が、視聴者に親近感と共感を提供できていると感じた。

・地域密着型の企画であり、今後も継続的な放送を期待と、情報提供の深度と視聴者参加型の工夫により、さらに魅力的な番組になると感じた。

・JOYの新潟ぶらり旅の第11弾とマンネリ感を出さないためにもロケ地の選択やキャスティングにも苦労があったと思うが、県央地区中心に軽快なテンポで楽しませる番組制作ができたのではないかと思う。

・今回は県央地区を中心に制作されたが、第 11 弾となると内容にも苦慮するところも多いと思う。県内各地で新たな誘客スポット作りを実践し観光振興に努力している事業者の皆さんをサポートする意味からも番組制作を継続して頑張りたいと感じた。

・新潟製品の食器や食材の紹介が具体的で、観光・グルメ情報としても有用なものではないか。地域愛を感じさせる演出が、観光促進や地域活性化に寄与する内容だったと思う。加えて、視聴者に自分もやってみたいという行動喚起に繋がったのではないだろうか。

・地域密着型の企画であり、今後も継続的な放送を期待と、情報提供の深度と視聴者参加型の工夫により、さらに魅力的な番組になると感じた。

（２）その他

視聴者対応

資料に基づき、２０２５年１０月分の視聴者対応について、事務局より報告を行った。

訂正・取消放送の報告

前回開催日～今回の開催前日までに総務省に届け出た訂正放送・取消放送はなかった。